



新北小

学校
だより

トベラの本

葛城市立新庄北小学校
NO. 4

10月  令和5年10月6日

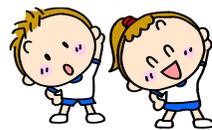
発行者 校長 杉村茂美

4年ぶり 幼小合同の運動会に向けて

朝夕、すっかり涼しくなってきました。学校周辺の田んぼの景色も、虫の音色も、空に広がる雲の形も、暑かった2学期早々とは様子が異なり、季節の移ろいを肌で感じます。

いよいよ明日10月7日(土)は運動会です。今年は、小学校全学年が一同に集まり、附属幼稚園も合同での運動会となります。保護者の皆様の入場制限もありません。このような形での開催は、実に4年ぶりです。うれしい限りです。

この1ヶ月間、子どもたちは一人一人の目標を胸に、一生懸命に練習を重ねてきました。日頃は一番年下の1年生も、園児にとってはお兄さん・お姉さんです。一緒に競技をする時は、お手本になるよう張り切っている姿が何とも微笑ましかったです。3日(火)には児童・園児が揃って予行練習を行い、入退場のタイミングや整列のポジションを確かめながら、全体で流れを確認しました。今年も、高学年の児童は「放送係」「準備係」「出発係」「決勝係」「児童開閉会係」「集合・誘導係」「応援・児童係」「救護係」と、運動会全体の運営に関わって係の仕事をしてきています。担当教員の指示のもと、それぞれが素早く確実に動けるよう、練習していました。そして、予行練習から見えてきた課題は、児童も教職員も本番に向けて更に変更・改善しています。皆が、「自分たちで、よりよい運動会を造っていこう!」と意気込んでいます。今年のスローガンは、



力を合わせて・心をつなぐ 240人の熱い思い

です。子どもたちの輝く姿に大きな拍手と熱いご声援をよろしくお願いします。



広い運動場は、新庄北小学校の自慢ですが、今年もこの広い運動場には夏の間草がたくさん育ち、まるで芝生を植えているようでした。全体練習が始まり、全校児童・教職員で草引きをしましたが追いつきません。そんな時、6年生の有志が放課後に集まり草を引いてくれました。次の日には人数が増え、さらに次の日には下学年の子

どもたちも草引きを手伝ってくれました。下校指導員のみなさんも、仕事の合間に総動員で運動場の草を引いてくださいました。おかげで、子どもたちが競技や演技をするエリアはすいぶん環境がよくなりました。ありがとうございます。自主的な子どもたちの姿、地域の皆様のご支援に感謝しています。



歯磨き教室(9月28日)実施



9月28日(木)に、奈良県歯科衛生士会から2名の方に来ていただき、歯磨き教室を実施しました。以前は学年を決めて実施していましたが、コロナ禍のために見合わせていた行事です。今年も、コロナ感染症の位置付けが5類になったこと、本校児童に虫歯が多いことから、全学年(低学年と高学年の2部制)を対象に実施させていただきました。

低学年(1~3年生)は、口の中で“歯の王様”と呼ばれる「6歳きゅう歯」の話をしてくださいました。「6歳きゅう歯」は、一番大きく、一番力持ち、一番はじめに奥歯に生える永久歯だそうです。しっかりした歯になるために3年間もかかり、虫歯になりやすいとのこと。子どもたちは、どうして虫歯になるのか?虫歯にならないためにどうしたらよいのか?を教えてくださいました。

高学年(4~6年生)は、6歳・9歳・12歳の歯並びや歯のレントゲン写真を見ながら話を聞きました。12歳にはほぼ歯が生え替わること、2人に1人が歯肉炎になっていること、歯肉炎が歯周病に発展することや、デンタルフロスの使い方等を教えてくださいました。

全学年に共通していることは、

- おやつ“ダラダラ食べ”はよくない
- 虫歯がしやすい部分は、①奥歯やかみ合わせの溝 ②歯と歯の間 ③歯と歯ぐきの境目
- 1日3回の歯磨きが効果的
- 自分に合った歯ブラシで、弱い力で丁寧に磨く(強い力でゴシゴシ磨かない)

ということです。そして、歯が生え替わる学童期は永久歯を守るチャンスであり、とても大切な時期であることがわかりました。学校でも歯磨きをスタートしています。子どもたちの大切な歯を守るため、ご家庭でも歯磨きの習慣が身につくよう、声かけをよろしくお願い致します。

防災給食を体験しました(9月29日)



9月の防災月間にあわせて、9月29日の給食に「救給カレー」が提供されました。

大きな災害が発生すると水道や電気・ガスが止まったり、生活に必要な物が手に入りにくくなったりします。そのため、日頃から、自分の命を守るために必要な物を備えておくことが必要です。

非常食を準備しておくのも対策の一つです。最近「ローリングストック」という言葉をよく聞きます。普段食べ慣れている食材で保存のきくもの(缶詰・レトルト食品等)を少し多めに準備しておき、使った分を買って足すことで、いつでも賞味期限が保たれた一定の食料を備えておくという方法です。いざという時でも、食べ慣れた物が身近にあることで、不安な気持ちを減らすことができます。

今回、「救給カレー」を体験した子どもたちに感想を聞いてみると、「おいしかった」「いざという時に、こんなものが食べられてすごいと思った」と、概ね児童の評価は好評でした。

いつ・どこで災害が起こるか分かりません。防災について考える機会を大切にしていきたいと思います。